

＜視点1＞【子供たちが安全・安心に学べる学校】

アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
生徒	学校は楽しい。	98%	➡ a	4	<p>○「学校は楽しい」と感じる生徒、子どもが「楽しそうに学校に行っている」という保護者の割合が高い。</p> <p>○「自分にはよいところがある」と考える生徒の割合は昨年度より増えている。</p> <p>→生徒会が主体となって縦割り活動を行っていることや行事後の振り返りの時間を確保していることが、「できた」「やれた」という実感につながっているのではないかと考える。</p> <p>また、通信等で生徒の活躍の様子を伝えていることも要因と考える。</p> <p>△「きまりを守って、生活している」と答える生徒が減少した。</p> <p>→今守るべききまりに優先順位をつけ、1つずつ徹底させる必要があるのではないかと考える。</p> <p>○大きな学校行事等が1学期は少なかったが、「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と感じている。</p> <p>△「先生は、子どもたちをよく理解しようとしている」と回答している割合が減少しているが、その反面、A評価の割合は増加している。</p> <p>○保護者の98%は「学校は、生徒の安全を守るために努力している。」と思っている。また、A評価は56%である。</p> <p>○職員の全員が、危機管理マニュアルを確認して行動している。</p>	<p>【目標数値:生徒「自分にはよいところがある」90%】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動や各種行事で、生徒主体の活動を継続し、自分たちで「できた」「やれた」という達成感を感じられるものにする。</li> <li>・ファシリテーション研修で学んだ、互いの意見や考えを尊重しながら、考えを交流させる手法を活用し、自分たちの建設的な意見を基に、行事の運営をさせる。</li> <li>・振り返りで、友だちのがんばりを評価をする場面の設定を継続し、互いのよさや頑張りを認められるようにする。(例えば、体育祭の解散式・文化祭合唱や発表の相互評価)</li> </ul> <p>【目標数値:生徒「学校のきまりを守って、生活している」100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まりの意義を考えさせる場面を設定し、規範意識を高めていく。ただし、命に関わるルールについては、厳しく指導していく。</li> </ul>
保護者	お父さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	95%	➡ a	4		
生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	98%	➡ a	4		
生徒	自分にはよいところがある。	80%	➡ b	3		
保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	98%	➡ a	4		
生徒	学校のきまりを守って、生活している。	83%	➡ b	3		
教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	92%	➡ a	4		
生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	90%	➡ a	4		
保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	98%	➡ a	4		
保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	93%	➡ a	4		
教員	学校は、生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡ a	4		
教員	学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	100%	➡ a	4		
保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	98%	➡ a	4		
教員	学校は、定期的な危機管理マニュアルを確認して行動している。	100%	➡ a	4		

3.9

**【課題①】生徒主体の活動**  
 <改善策>  
 ○生徒中心の活動・相互評価場面  
 ○ファシリテーションの活用

**【課題②】学校のきまり**  
 <改善策>  
 ○規範意識の醸成と遵守

＜視点2＞【生徒の確かな学びを保障する学校】

アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
生徒	授業の内容はよくわかる。	83%	➡ b	3	<p>○生徒「授業の内容はよくわかる」と回答した生徒の割合が、昨年度に続き増加傾向にある。</p> <p>△授業内容については、保護者の肯定意見につなげるため、テスト等で、成果が見えるようにする必要がある。</p> <p>△家庭学習や生活リズムについて、学校では継続的に指導しているが、インターネットの使用時間の関係もあり、学習時間の増加には至っていない。</p> <p>→指導を徹底していく。</p> <p>○95%の保護者は「学校は、『学び合い・認め合い・高め合い』によってお子さんの力を伸ばそうとしている」と感じている。認め合う場面があると感じている。</p>	<p>【目標数値:教員「授業の内容はよくわかる。」90%】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がわかるようになっている生徒が増えているが、内容の定着が不十分である。キーワードを活用し定着を図ると共に、授業の構成力を教職員が身に付けていく。</li> </ul> <p>【目標数値:生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」80%】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、ネットとの上手なつき合い方について、保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。</li> </ul>
生徒	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	83%	➡ b	3		
保護者	お父さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	68%	➡ d	1		
教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	➡ a	4		
教員	私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	100%	➡ a	4		
生徒	授業では、「学び合い(対話)」によって、自分の考えが高まっている。	88%	➡ b	3		
教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡ a	4		
生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	45%	➡ d	1		
保護者	お父さんが家庭学習に取り組む姿勢は、十分だと感じていますか。	37%	➡ d	1		
教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	➡ a	4		
生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	78%	➡ c	2		
保護者	お父さんは、早寝・早起きをしていますか。	49%	➡ d	1		
教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	100%	➡ a	4		
生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	38%	➡ c	2		
保護者	お父さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	59%	➡ c	2		
教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	100%	➡ a	4		
生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	95%	➡ a	4		
生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	93%	➡ a	4		
保護者	学校は、「学び合い・認め合い・高め合い」によってお子さんの力をのばそうとしていますか。	95%	➡ a	4		

2.9

**【課題③】学力向上**  
 <改善策>  
 ○見取りを生かした補充的・発展的指導

**【課題④】家庭生活の見直し**  
 <改善策>  
 ○家庭学習の取組の改善  
 ○ネットとの上手なつき合い方

<視点3> 【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】

アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡ a	4	○職員全てが本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。 △午後7時30分までに退校している職員が75%で、退校できない職員と2分化している。 →主任相当が新任のため、業務に時間がかかったことが原因と考えられる。	【目標数値:職員「私は、業務の効率化をすすめ、午後7時30分までに退校している。」100%】 ・業務の抱え込みとならないよう、校務分掌を適宜見直して、業務の平準化・効率化をすすめる。 ・6割起案を意識し、業務内容の大幅な削減や改善を行う。
教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	100%	➡ a	4		
教員	私は、自らの職責を果たすために、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	➡ a	4		
教員	私は、教務の効率化をすすめ、午後7時30分までに退校している。	75%	➡ c	2		

3.5

**【課題⑤】 <改善策>**  
 ○業務の平準化・効率化  
 ○6割起案による業務内容の見直し

<視点4> 【地域社会の一員として信頼される学校】

アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
生徒	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	93%	➡ a	4	○生徒はすすんであいさつができています。  ○保護者は、「地域と連携した体験活動」に取り組んでいると感じている。 ○生徒も「地域の人・もの・ことからいろいろなことを学んでいる」と実感している。海洋教育等でも、地域の方との交流を図ることができた。  ○保護者は、「学校と保護者との連絡は密にしている」「学校からの情報発信は十分である」と感じている。今後も継続していく。	【目標数値:生徒との「地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。」85%】 ・1学期に行った体験活動が、自分たちの学びにつながっていることを実感させるよう意識して指導する。 ・地域と関わりを持つ場面を継続的に確保し、地域社会の一員であることを実感させるような仕掛けを行う。
保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	88%	➡ b	3		
生徒	地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。	78%	↑ c	2		
	地域の行事には進んで参加している。	75%	↑ c	1		
保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	93%	↑ a	4		
	学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	100%	➡ a	4		
教員	学校は、まちの先生を積極的に活用している。	100%	↑ a	4		
保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていますか。	93%	➡ a	4		
	学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	95%	➡ a	4		
教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	↑ a	4		

3.4

**【課題⑥】 地域体験活動**  
 <改善策>  
 ○体験活動と学びの連動  
 ○まちの先生の活用(学期に1回)

<<アンケート集計から自己評価までの流れ>>

① アンケート結果から、それぞれの項目をa~dの4段階に評価する

- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d

② ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を求める

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う

- 平均が3.5以上 ⇒ A
- 平均が3.0~3.4 ⇒ B
- 平均が2.3~2.9 ⇒ C
- 平均が2.3未満 ⇒ D

➡ 5%以上増えている      ➡ 5%以上減っている  
↑ 10%以上増えている      ↓ 10%以上減っている      ※令和3年度後期との比較

**【保護者から】**  
 ・都市部との学校の違いは、人数が少ないことによる人との交流の深さではないかと思う。不出来な部分はあるかと思うかできるだけびのびと育てほしいと思う親心です。  
 ・子供も親も先生に求めるのは親身になって気にかけてくれることです。良い生徒ではないかもしれませんがよろしく願います。  
 ・個人面談では一方的に持論を話され、説教された格好になり子どもは困惑していたので改善してほしいです。